

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 1 日

事業所名 敦賀市立子ども発達支援センターパラレル

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		車椅子やバギーが通りやすいようスペースの確保ができています。	車椅子やバギーの高さに合わせられる機が必要。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			毎月ミーティングを実施し、業務の役割分担を決めたり、確認を行っている。チームで分けているため協力しながら取り組んでいる。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		利用希望に関する調査を実施している。	利用曜日や回数など、すべての方の希望や意向に合わせた対応が難しい状況にある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				ホームページでの公開を行っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		法人として第三者からの評価を受け、業務改善、効率化に取り組んでいる。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			施設コンサルテーションを受けており、あわせて職員研修を行うなど、専門性やスキルアップに向けて取り組んでいる。オンデマンドでの講義も聴講している。	
適切 な 支	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			保護者の方から日頃の様子や字校の様子などを聞き取りながら、ニーズや課題について確認している。また、活動の様子から他者とのかかわりや手先の使い方などを確認し、今後の支援につなげている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		言葉やイラスト、数字など、物事の理解の状況について評価、把握を行うため、評価キット（自閉症eサービス製造販売）を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			チームごとで役割を入れ替えながら、季節のゲームや調理を企画している。	年齢に合わせたクラスをつくり、その中でお手伝いやグループ活動の内容などを相談検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			あらかじめ設定されている活動だけでなく、選択活動も設定し、いろんな活動に取り組めるよう工夫している。また上記のとおり小クラスをつくることで取り組む内容の幅も広がってきている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		子ども一人ひとりに、1か月ごとの支援目標を設定し取り組んでいる。支援経過をもとに翌月の目標を設定している。	

援 の 提 供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別活動にお手伝い活動なども取り入れるなど、色んな活動を組み合わせ支援を行うことを支援計画に盛り込むようにしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			活動の環境設定や全体で共有が必要な情報について毎日ミーティングで確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎朝ミーティングを実施し、前日の振り返りを行い、様子や支援状況を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援計画や目標に沿って記録し、支援経過の把握、次の支援につなげるために様式の見直しを行った。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			個別支援計画に基づき、1ヶ月ごとに支援目標を設定し、取り組んでいる。	結果をモニタリングやまとめて説明し、見直し等の必要があれば保護者の方と検討する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			サービス管理責任者またはリーダーが参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			学校からは毎月下校時刻一覧表をもらって、送迎時間を間違わないように確認している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			移行支援会議の際に、支援内容等の情報を提供したり、支援マニュアル等の引き継ぎを行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			自事業所がセンターであり、発達障害児者支援センターの窓口も同じ建物内にあることから必要に応じて助言を受けることができている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	児童クラブとの交流はない。施設に子ども国が隣接しているため、子どもの国の館内や遊園で地域の子とも触れ合ったり、一緒に野球をすることがある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			療育部会には積極的に参加している。	

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		毎日のご利用ではないこと、お迎えや送迎時に十分な時間がとれないため詳しくお伝えすることができていない。個別支援計画作成、まとめ、モニタリング、担当者会議等では現在の様子等についてお伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時をはじめ、変更等があれば、保護者に通知し、同意を得ている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			お迎え時など、直接保護者の方と顔を合わせる機会にご相談があれば応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者参加の座談会を毎年実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			重要事項説明書に窓口等の説明を行っている。今のところ苦情等の申し出はない状況である。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		定期的な会報は発行はしていないが、長期休み前には、昼食やおやつ買い物の希望、予定などを事前にお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している		○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		子どもに対しては、スケジュールの提示し、予定確認、変更等についてやりとりしている。保護者の方とは直接の面談や電話、LINE等を使用し、スムーズな情報提供を心掛けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍であったり、個人情報の観点から積極的な実施はできていないが、施設行事には外部の機関や団体に協力してもらっている。(ライオンズクラブ、キッチンカーなど)	
非常時	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			感染症については、動画やマニュアルを作成し、職員間で対応方法を確認している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			BCP計画を作成し、職員に周知している。施設内で委員会をつくり、備品の確認、訓練を計画し、随時実施予定。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部研修をはじめ、施設内においても職員研修を実施している。	

等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		必要性や可能性がある場合には個別支援計画書に記載するようにしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	食物アレルギーの有無について確認する資料を提出してもらっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットは報告書を作成し、回覧したり、朝礼等で報告を行っている。	